

## 中央新幹線小委員会「中間とりまとめ」を問う！ 院内集会「リニア中央新幹線を考える集い」開催！ 国会議員、秘書など含め約90名が参加！

参議院議員会館において1月27日、「リニア中央新幹線を考える集い」が開催されました。

集いでは、国交省・中央新幹線小委員会から昨年12月15日に発表された「中央新幹線に関する中間とりまとめ」について、慶応義塾大学・川村晃生教授が「巨大、国家的プロジェクトなのに中身がない」と指摘し、参加された国会議員、秘書に対し、①リニア中央新幹線は国土利用のランドデザインの中でどう位置づけられるのか。②在来線、新幹線、そしてリニア方式という第三の鉄道は整合性を持つのか。③人口減少、新幹線利用減少という状況下で、リニアは維持できるのか。④自然や人間への影響を考えると、リニアは21世紀型鉄道といえるか。などについて良く考えて政策判断をしていただきたいと訴えました。

千葉商科大学・橋山禮治郎教授は「国家的プロジェクトなのに国民に対して情報提供が少ない。それは国からも事業者になろうとしている

JR東海からもいえることだ。情報を今以上に公開し、国民的議論を経てプロジェクトを進めるか止めるか、国民が決めるべき」と指摘しました。さらに政府と国会には「国家百年」の歴史的観点からの政策判断が求められていると訴えました。



# 情報公開と国民的議論を！